デーリー東北様の新聞にて、

サンライフの記事が掲載されました！！

サンライフ終身身元保証協会が作製

エンディングノート活用を

身寄りのない人の身元保証を引き受ける八戸市の「日本サンライフ終身身元保証協会」（田中圭理事長）が、オリジナルのエンディングノートを作製した。2月以降に市高齢福祉課などを通して、希望する人に無料で配布する予定。

同協会は、さまざまな事情を抱える高齢者と関わる中で、現場の実態に合ったエンディングノートの必要性を痛感し、市の協力を得ながら作製した。

財産管理や治療に関することなど一般的な内容に加え、写真データなどの「デジタル遺品」や電子マネー、インターネットバンキングの情報を書き込むスペースも大きく確保。万が一のときの延命治療の項目もチェックシート式にするなど「書き込みやすさ」も重視した。

文章を書く部分はできるだけ少なめにしているのも特徴。名称も「マイライフノート」にし、若い人にも関心を持ってもらえるように工夫しているという。

担当した大西由里英さんは、支援の中で、財産のことを把握していないケースが多いと感じていた。「現場で高齢者の方から聞く声を反映した内容重視のノート。若い人にも、ぜひ活用してみてほしい」と話している。

（三浦千尋）

支援活動を通して聞こえてきた利用者の声を反映して作製した「マイライフノート」

デーリー東北様の新聞にて、

サンライフの記事が掲載されました！！

日本サンライフ終身身元保証協会

現場の声参考に使いやすく

市にエンディングノート完成報告

八戸市の日本サンライフ終身身元保証協会（田中圭理事長）は、市の協力を得て、現場の声を取り入れたエンディングノート「八戸市マイライフノート」を作成した。14日に市庁を訪れ、熊谷雄一市長に完成を報告した。

同協会は、身近に頼れる親族がいない人の身元保証を中心に、入居支援や財産管理サポートを行うなど、関係機関との橋渡し役としてサービスを提供している。

ノートは同協会の利用者や市民の要望を受けて作成。市は相談機関に関する情報提供や内容の確認、配布を通して協力した。終末期医療の項目を詳細にしているほか、財産管理の部分にはインターネットバンキングの項目を設けているのも特徴で、若い人も記録用として活用できる、ポップなイメージにするなどの工夫を凝らした。

熊谷市長を表敬した田中理事長は「ノートへの書き込みを通して、家族のことや自分自身のこと、もしものときのことを家族と考えるきっかけにしてほしい」と期待を込めた。

ノートは１万部発行。２月以降に市高齢福祉課や市内12カ所の高齢者支援センターで希望者に無料で配布する。（三浦千尋）

熊谷雄一市長（左）にマイライフノートの内容を説明する田中圭理事長（左から２人目）ら